

## 令和2年度第3回会津美里町観光まちづくり推進協議会議事録

日時：令和2年12月3日（木）14:00～

場所：会津美里役場2階203・204会議室

出席委員：石原直委員、水野俊彦委員、伊東広子委員、高梨宣浩委員、長谷川洋一委員、柴崎陽委員、竹内樹美委員、長谷川祥子委員、渡部茂樹委員

事務局（産業振興課）：金子課長、小林課長補佐、小林係長、石黒主任主査

### 1. 開会

#### 2. 委員長挨拶（石原委員長）

- ・ここに来る途中、左下り観音に立ち寄ったが、なかなか見応えがある。坂を上って行き、最後にならないと清水寺のような建物が目に入ってこないというサプライズ感が良い。もう少し観光資源としてうまく活用できるのではないか。
- ・前回協議会は闊達で前向きなご意見をいただき、内容について進展があった。今後、話が戻らないようにするために、この計画書の冒頭で、なぜ会津美里町で観光をやるのかということを中心にきちんと表明しておく必要がある。そうしないと、後戻りしてしまう可能性がある。
- ・政府は観光立国を表明しているが、今回は2回目である。1回目は戦後、外貨を稼ぐために京都、箱根、日光などへの観光客誘致を始めた。国際観光ホテル整備法を始めとした様々な法律を作り推進した。外貨を稼ぐという明確な目的があった。当時は1ドル360円で、その頃の東京の一流ホテルの宿泊料金は10～15ドル。アメリカのちょっといいホテルは40～50ドルの時代である。
- ・今また再び、観光立国と言っているが、推進する理由のひとつは地方創生のため、もうひとつは、外国人が日本に来る必然が薄れたためである。日本に金融センターを誘致できなかったことや、成田空港が世界のハブ空港になれなかったこと、国際会議も日本は遠くて英語が通じない、さらに円高で人気がないことなど。昔はヨーロッパからアジアに来る時は必ず成田に一泊して他の国へ移動していたが、飛行機の性能がよくなり1泊する必要がなくなったり、あるいは駐機代が高い成田に来なくなったりした。今回の政策はある程度は成功したが、むしろアジア諸国の経済成長のおかげだ。
- ・このように、観光は大きな目標を掲げてやってきた。我々もここで、もう一度、なぜ我々が観光をやるのか、はっきりさせておくべきだと思う。そうしないと、後々、私には関係ないと言い出す人が出てくる恐れがある。

### 3. 議事

#### (1) 町民懇談会について

(事務局より資料説明)

委員長

- ・当日参加者が一人だったとのことで、これをどう評価すればよいのか。
- ・良いご意見をいただいたと思うが、参加者が一人だけだと、町民懇談会を実施したと言えるのかどうか疑問である。

(2) 後期観光振興計画(素案)について

(事務局より資料説明)

委員

- ・素案については今までの議論がまとまっていると思う。3つのリーディングプロジェクトが設定され分かりやすくなった。
- ・リーディングプロジェクト2(既存イベントの新体制による試行実施)について、これまで既存イベントの企画には関わりにくかったが、参加できる機会ができるのであれば関わっていききたい。これがリーディングプロジェクトとして示されたので、具体的に前に進むことを期待している。
- ・12月13日(日)に、せと市の際にナイトバルを実施した場所で、クリスマスマーケットを開催する。関係者の皆様のご協力をいただきながら、準備を進めているところである。このようなまちなかのイベントを今後も続けていけたらと考えている。

委員長

- ・町民の方への告知はどのようにやられているのか。

委員

- ・新しい地域おこし協力隊の方に協力していただき、ポスターやちらしを配布したり、SNSで発信している。

委員長

- ・これからアクションプランを進めていくにあたり、どうやってイベント等を知ってもらうかはとても重要である。

委員

- ・本当はたくさんの方に来ていただきたいところだが、昨今の社会状況から、情報発信の加減がむずかしい。イベントでは3密回避や消毒等の対策を徹底し、また今回は地元の方を対象として実施する。

#### 委員

- ・アクションプラン3（外部サポーターの形成）にもあるが、観光百人衆や観光大使等の関係人口をまず増やし、目標につなげていくことが重要である。

#### 石原委員長

- ・観光大使や観光百人衆の方々に対して、常に情報を出していくことが重要だが、その仕組みをどう作っていくか、これから議論しなければならない。

#### 委員

- ・アクションプラン3の情報発信について、具体的にどうやって発信していくのかが気になる。誰がいつ、魅力的と感じていただけるように発信する方法をつめていく必要がある。アクションプラン1、2の内容も含めて、VRなどの技術も活用しながら、美里に行きたいと思わせるよう魅力的に発信できると良い。

#### 委員

- ・会津チャレンジライフ（会津の暮らしを体験する県の事業）のコーディネートを担当している。この事業で今年度町に2名の方が長期滞在され、町に対するプラス・マイナスの意見をお聞きしているので、これをブラッシュアップして活かしていければと思う。
- ・コロナの前やインターネットのない時代には戻れないので、これを大前提とした通信環境等の基盤づくりが必要である。来町者は自らSNS等で積極的に情報発信してくれるので、それを想定した土壌づくりが必要である。
- ・魅力の発信とあるが、「魅力」だけでは概念的であり大雑把過ぎる。地域の価値を上げることが重要だが、魅力は個々にあり、その背景やストーリーが具体的に分かった方が良い。その個別の情報をSNSで発信できる時代。世代によりささる情報はそれぞれなので、若い人からお年寄りまで、なるべく多世代で発信するのが良いと思う。例えば首都圏の独身者はフットワークが軽く、重要な対象である。観光百人衆等も含め、情報発信については、色々な背景のある方を取り込んで、細かいニッチな情報を多岐に渡って発信する。調べればわかる情報ではなく、地元の人しか分からない情報を現地から発信することに価値がある。

#### 委員長

- ・町の中にいる人にとっては、魅力の視点が少し違うので、外部の方を含めた色々な方の意見を取り入れて、美里の魅力をもう一度皆さんで考えていただくのがよいと思う。

#### 委員

- ・よそから来た方にいいよと言われて、はじめて地元の良さに気が付くので、外部から来て

いただいた際には、なるべく地域の方と交流していただき、地域の方が町の魅力を逆輸入するような機会ができれば、非常にいい循環が生まれるのではないかと。

#### 委員長

- ・この盆地は閉塞感がなく、かといって広すぎることもなく、磐梯山や飯豊山など、全ての山が見渡せて、それだけでも素晴らしい土地だと思う。例えばこのような外の人の意見を取り入れ、地元の方のものとしてぜひ発信していただきたい。

#### 委員

- ・若者はグーグルやヤフーはほとんどみないで、ツイッターやインスタから情報を得て行動している。
- ・栃木や横浜等からわざわざ梅漬けを買いに来る人がいたり、新潟・三条市からの修学旅行生は土産物店で買物して喜んでくれた。また買いに来たいと思わせるものや、美里に来た記念になるものを売る店が何軒かできると良いのかなと思う。

#### 委員

- ・GO TO 美里ツアーには 100 名くらいの方に参加いただき好評だった。後日、お客様から、ある寺社で御朱印をもらおうとしたら、非常に粗末に扱われたとのクレームが観光協会にあった。受け入れ体制を良くするにはどうしたらよいか、これから考えていく必要がある。
- ・若い方々による新しいイベントはとても良いことだと思う。イベントを開催する際には、観光協会にもチラシを預けていただければ積極的に配布したいと思う。理事たちに配布することで、町民に広く周知することができる。

#### 委員長

- ・イベント等を実施する際には、観光協会にどんどん相談していただくのが良いと思う。イベントの周知は観光協会の役割のひとつでもある。

#### 委員

- ・夏のバルとクリスマスイベントは、地元の方に地元の価値を理解していただくことが大前提であり、ターゲットは地元の方である。観光協会に来る観光客というより、むしろ観光協会に働いている人に来ていただくイベントであり、近隣市町村から羨ましがられるイベントにしたい。観光協会は地元に近いネットワークがあるので、今回のクリスマスイベントについては、美里や会津管内の方々に発信していただくとありがたい。

#### 委員

- ・何かやるときは協力するので、ぜひ声をかけてほしい。

- ・町内3つの地区でイベントやPR等のやり方は異なるだろう。例えば、本郷には窯元があるので、その敷地を活かしてイベントを実施した。高田の場合、人を呼び込むにはどうしたらよいか。他地区と同じことをしてもだめであろう。そこをこれから考えていく必要がある。

#### 委員長

- ・町の方々が来てくださることに対して、ありがたいと思うことがまず必要である。そのためには、例えば、観光百人衆にイベントに参加していただき、発信してもらうことも重要である。
- ・アクションプラン1のタイトル「観光資源、拠点施設を結ぶネットワークづくり」が他に比べて抽象的であり、リーディングプロジェクトと一致していないように感じる。何のネットワークづくりか。

#### 事務局

- ・インフォメーション等の観光拠点や様々な資源をつなげるとの意味合いである。

#### 委員長

- ・タイトルを内容に対応したもう少し具体的な表現に改めていただきたい。

#### 事務局

- ・アクションプランの趣旨としては、外から人に来ていただくためのインフラ整備がAとしてまずあり、その後のBでモニターツアー含めた商品化との流れである。タイトルは工夫したいと思う。

#### 委員長

- ・もしタイトルを活かすのであれば、逆にリーディングプロジェクトのタイトルを工夫する方法もあるかもしれない。

#### 委員

- ・町民懇談会の参加者数で分かるように、現状の町民の観光に対する意識はこの程度だが、今後、アクションプランを推進していく上では、人を巻き込んでいく見せ方をそれぞれの事業で取り入れてく必要がある。これまでも観光はすでに少しずつ変化しつつあったが、コロナのパンデミックにより急激に変化した。コロナ後は元に戻るというより、別のものに進化していく、との考え方で臨んでいく必要があると思う。このタイミングはチャンスかもしれない。今まで興味がなかった観光が、見せ方によっては観光っていいかもね、となるかもしれない。今後事業を実施していく中で、その見せ方を考えていきたいと思う。

- ・そのためには、マーケティングが最も重要である。今後どのようなマーケティングをやっていくか検討が必要である。以前、DMOの講師に来ていただいた先生が、自分たちでできないなら、買ってしまえばいいとおっしゃっていた。かつて、JRがパスタのレシピを作るために、1千万円でレシピを買っていた時代もあったが、今はデータをいくらでも入手できる時代で、行政はそのようなデータをたくさん持っている。しかし、それがなかなか現場まで降りてこない。現場に降りてくれば、例えばそれを農家に提供することにより、インバウンド向けのトマトが開発されるかもしれない。個々で検索等して調べるのも良いが、折角、統計的に出ているのだから、大いに活用すべきだと思う。このような協議会でこういった意見を出し、情報を入手して、色々な方に共有できるようにすれば良い。
- ・ネットワークづくりはマッチングだと思う。観光とはここにいる人と都会から来る人とのマッチングであり、だから観光はいいよねと思えるのであり、こうした考え方を基調に観光を推進していくべきである。今後おそらく紆余曲折や反対意見もあると思うが、光が当たっている所は、何となく真似したくなり、さらに、光が当たっている所が多くなると、日なたが多くなり、皆、日なたに出てきたくなるだろう。計画ができた以降の動き次第で変わらと思う。

#### 委員長

- ・マーケティングは観光の基本である。この言葉がアメリカで出来てまだ50~60年くらいしかたっていない。従来、バラバラにやっていた開発や調査、製造、販売などが、全てひとつのマーケティングの下、一貫してやるようになった。それぞれの過程の効率を考えてマーケティングという言葉ができた。DMOの考え方はこれに似ている。考えていることと、すでにあるデータや調査結果をどう結びつけていくか検討し商品化するのがマーケティングであり、全てを俯瞰してやるものである。本来はこのような協議会がその役割を担う。
- ・例えば、町の選果場では美味しいりんごを少し傷があるだけでとても安く買えるが、それだけで売るのはもったいない。加工して売べきだ。アップサイドダウンケーキ(あるいはタルト・タタン)は比較的簡単に作ることができるが、例えば、このようなりんごを主体とした商品を開発し、町内の色々な飲食店等で提供し、町の名物にする。これにより、特産品のりんごから、ワイナリー、温泉等町の様々な資源が線につながる。こういったことを考えていくのもマーケティングであり、ぜひ取り組んでほしい。
- ・本日は貴重なご意見をいただいた。計画はまとまってきたが、今後は誰がやるのか等について具体的に詰めていく必要がある。

#### 4. その他

##### 委員

- ・12月14日(月)に延期になっていたグリーンクラフトツーリズムのシンポジウムを開催

予定である。地元の価値を自分たちが知る、暮らしている場所を暮らしたい場所に変えていくことを目指した事業の一環として開催する。ゲストスピーカーとして、まちづくりで全国的に活躍されている方々が登壇するので、ぜひ参加いただきたい。

#### 委員長

- ・グリーンクラフトツーリズムとはどういうものか。

#### 委員

- ・美里にある農産物やワインなど（グリーン）と、本郷の窯元や職人（クラフト）を合せてそう呼んでおり、ワインツーリズムやクラフト体験を合せたものである。美里に今ある価値を活かして、磨き上げて、商品化するものである。

#### 事務局

- ・グリーンクラフトツーリズムについては、計画素案 p18 に掲載されている。

#### 委員

- ・これに高田地区が入ってくると、「マインドフルネス」の要素が加わり充実した内容になるのではないかと思う。

#### 委員長

- ・今は何でも観光になる時代。観光という視点で見ると何でも資源になる。美里に今あるものをそのような目で改めて見て、観光資源を掘り出していこう。

#### 委員

- ・12月13日（日）のクリスマスマーケットは、夏のナイトバルと同じ本郷の会場で9～17時まで開催する。軒先や煙突のライトアップを行う。窯元組合ともコラボレーションし、これに合わせてせと市ウィーク（2週間のセール）もこの日から開催する。せと市ウィーク中にスタンプを集めた方は各窯元手作りのオーナメントをノベルティとしてもらえる。これらのオーナメントは会場に設置するツリーにも装飾する。飲食や雑貨のブースも出店する。ストーブで暖を取りながら、地元を楽しむイベントとする。

#### 委員長

- ・せと市ウィークの期間中、窯元は夜も店を開くのか。

#### 委員

- ・店は通常営業で16時半に閉店するが、ライトアップは夜も続け、21時にタイマーで切れる設定にする。

#### 委員長

- ・折角のイベントなので、夜まで店を開けてくれたら良いのだが。観光に対する考え方とはまさにこういうことである。

#### 委員

- ・今後、イベントを続けて関係ができ、大きくなれば、変わっていくかもしれない。

#### 委員長

- ・観光は、総論賛成、各論反対となってしまうがちである。そこを突破しなければ観光はできない。ぜひ打診はしてほしいと思う。

#### 委員

- ・今回、初めてのクリスマスマーケットで、良い感じで開催することができれば、次はもっと協力してくれるかもしれない。

#### 委員長

- ・良い感じにするには、最初から皆でやった方が良いのではないか。観光として盛り上げるにはそういうことが必要である。ただのライトアップで終わってしまう。

#### 委員

- ・夏に一度開催して、窯元さんもやる気が出てきたところで、今回2回目である。例えば、2回目をやって、地元の方からもっと食事するところがほしいという声が出てきて、地元の人が動く、というのが一番良い形。地元気づきを与えるために、一步一步やっているところである。

#### 事務局

- ・今後のスケジュールについてお話しさせていただく。今後1月中旬までに、産業振興課にて素案を仕上げた後、2月中旬までの予定でパブリックコメントを実施する。その後、2月下旬頃に第4回推進協議会を開催予定である。

#### 5．閉会

#### 委員

- ・会津若松の鶴ヶ城が再建されて50年が過ぎ、その観光の流れの中で、観光ハラスメントも生まれてきて、観光に対する抵抗感を持っている人が多いと聞いている。グリーンツーリズムも観光の神髄が伝わらずに、農家だけが疲弊して、農家民泊を止めてしまうケースも多々あるという。観光もビジネスであり、ビジネスの基本は、互いを補い合うことであ

る。足りないものを足りない人に提供するということが基本路線に進めれば、うまくいくと思う。引き続き、皆さんで議論しながら、観光振興計画をさらなる高見に持って行きたいと思う。

- ・これをもって、第3回推進協議会を閉会する。

以上